



写真1 須賀神社と参道の階段

須賀神社 三十六歌仙繪

三十六歌仙は、平安時代中期の公卿藤原公任（966-1041年）が、過去および同時代の優れた歌人36名を選定したもので、万葉歌人から柿本人麿・山部赤人・大伴家持の3名が、平安時代前期の「古今和歌集」「後撰和歌集」から紀貫之、在原業平、小野小町ら33名が選ばれています。

四谷総鎮守の須賀神社（写真1左）には、この三十六歌仙を一人一枚、縦55cm、横37cmの絹地に彩色し額装した三十六歌仙繪（さんじゅうろっかせんえ）が社室として拝殿内に掲げられています（写真2）。天保7年（1836年）に奉納されたもので、当時、文人画家として高名だった四谷大番町（現 新宿区大京町）の旗本大岡雲峰（1764-1848年）が絵を、和歌や書画で人気を博した公卿千種有功（1797-1854年）が書を担当しております。特に、衣冠の考証が正確であるといわれており、昭和61年に新宿区の有形文化財に指定されています。

須賀神社のご祭神である須佐之男命は、わが国で初めての和歌と伝えられる「八雲立つ出雲八重垣つま籠みに 八重垣つくるその八重垣を」という歌を詠んだことから、「和歌の祖神」と崇められています。

新緑のすがすがしい季節。映画のモデルになった参道の階段※（写真1右）で一首ひねりませんか。

参考文献

須賀神社（新宿須賀町5）

URL <http://www.sugajinja.org/index.html>

新宿区立新宿歴史博物館

URL <http://www.regasu-shinjuku.or.jp/rekihaku/>

新宿区教育委員会掲示より

※昨年公開のアニメ映画「君の名は。」の舞台となったことで有名です。



写真2 三十六歌仙繪の一部（拝殿正面）

